

論文審査の要旨
(Summary of Dissertation Review)

博士の専攻分野の名称 (Degree)	博士 (経済学)	氏名 (Author)	唐 琳懿
学位授与の要件	学位規則第4条第1項該当		
論文題目 (Title) Study on Trade Effects of Food Safety Standards: Export Promotion, Measure Protection and Trade Duration (食品安全基準の貿易効果に関する研究：輸出促進、措置保護および貿易持続期間)			
論文審査担当者 (Dissertation Committee)			
主査 (Committee chair)	教授 大澤 俊一		印
審査委員 (Committee member)	教授 千田 隆		印
審査委員 (Committee member)	教授 友田 康信		印
〔論文審査の要旨〕 (Summary of Dissertation Review)			
<p>本論文第1章では、本研究のテーマについての学問的背景や問題意識が述べられている。現在中国は世界最大の食料輸入国であり、食品安全基準が貿易にどのような影響を与えているかを、理論的実証的に分析することが、この論文全体のテーマとなっている。例えば食品安全基準が国内産業を守るための関税に代わるものとして利用されていないか、他国との基準値の相対的な違いが、消費者選好などにどのように影響するのか、また中国と他の先進国の間での取引の安定性、具体的には取引の継続期間の長さへの効果はどのようなものであるかなどを、明らかにすることを目的としている。</p> <p>第2章では、中国の食品安全基準、特に食品への農薬や殺虫剤などの残留物質の最大許容量が、非関税障壁として利用されているかどうかテーマとされている。具体的には被説明変数を、国際基準と比較した場合の中国の食品安全基準の厳しさを指数とし、説明変数を中国の一人当たりGDP、国内食品安全についての事件のメディアのレポートの数、輸入関税、食品輸入量などとし、実証分析を行っている。結論としては、中国では食品安全基準を非関税障壁あるいは貿易保護政策の手段として用いていないことが示されている。中国の一人当たりGDPやメディアにとりあげられた食品についての事件の数も、安全基準に正の効果があることが示されている。</p> <p>第3章では、性質の異なる企業の貿易モデルを用いた理論的、実証的分析による、農産物輸入品への食料安全基準の効果を研究している。従来の研究では輸入国と輸出国間の基準値の違いより、輸出国である先進国の基準の効果にのみ焦点が当てられてきたが、この章ではその基準の比率に注目している。そして輸入国である中国の食品安全基準がより厳しくなった場合と、輸出国である先進国のそれがより厳しくなった場合が、Chaney モデルを応用した理論モデルによって分析されている。そしてその基準値の差が、消費者選好、可変費用、固定費用に与える効果が分析されている。実証研究ではEUの食料品安全基準がより厳しくなることが中国からEUへの食料品輸出を抑制していないことが示された。</p>			

第4章では、食品安全基準と貿易継続期間の関係についての実証分析を行っている。貿易継続期間が長期化することは、貿易する両国の間の関係が改善し、関係が安定化することを意味すると解釈することができる。このような研究はこれまではあまり行われていないので、新しい視点からの研究といえるだろう。結論としては、中国の食品安全基準を改善することは、農産物の貿易の相互関係を改善する助けとなることが示された。国際標準と比較し中国の食糧安全基準を1パーセント厳しくすることは、中国の農産物の貿易継続期間を0.32%から0.69%引き延ばすことが示された。

以上、審査の結果、本論文の著者は博士（経済学）の学位を授与される十分な資格があるものと認められる。

備考 要旨は、1,500字以内とする。